



## 第147期救急科を実施しました

[期 間] 令和4年6月14日（火）から8月1日（月）まで  
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校  
所属消防本部

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 27消防本部（局）96名  
平均年齢26.4歳

### 修了しての感想

救急科入校期間中の約1か月半の間、これほどまでに救急に没頭した日々があったでしょうか。座学では、今期から場所を消防学校に移し、埼玉県内の各消防本部（局）の救急救命士が講師として壇上にあがり、講師が出場した事案の経験談を織り交ぜて解説してくれることで理解が深まりました。

実技では、コロナ禍でコミュニケーションが取りづら  
中、「傷病者を必ず社会復帰させる」という強い気持ちを持った分隊ほど一つになり、私達学生の気持ちに伝えるかのように教官方の丁寧で分かりやすく且つ熱い指導により147期の学生全員が同じ方向を向いて訓練に臨めました。

「流した汗の分だけ住民の流す涙が減る」この言葉は実技訓練の初日に統括教官が私達学生に対して伝えた言葉です。多くの学生が救急科でたくさんの汗を流し、悔しい思いをしたと思います。しかし、救急科で流した汗だけでは、まだまだ住民が流す涙は減りません。これからも消防官として一人でも多くの住民が大切な人を失うことで流す涙が減るように自己研鑽に励んでいきたいと思います。



### 後輩へのメッセージ

今後、救急科に入校される学生は、「感染対策の徹底」をお願いします。未だコロナウイルスの感染状況の終息が見えなく、私達147期の学生は入校期間中に第7波に突入し、救急科の存続も危うい状況でした。所属で欠員が出ても応援勤務等で対応は可能ですが、消防学校は欠員が出たらそのままです。通常1分隊8名で活動しますが、4人という時もありました。入校期間中、約1か月半の間、休日も含めて何を一番に優先しなければならないのかを考えて学校生活を送ってほしいと感じます。

### 修了しての感想

念願の救急科に入校し、内容の濃い充実した学校生活を送ることができました。入校中は「救急救命士スゴい！」と何度も思いました。座学では全く知識のない人でも理解できるようにわかりやすく丁寧に教えてくれ、楽しく学ぶことができました。実技では、資器材の取扱いから現場対応シミュレーションまで、時に厳しく時に優しく、そして



笑いありで学ぶことの楽しみ方も同時に知ることができました。入校中に新型コロナウイルス第7波の感染が拡大し、欠席者が何名か出てしまいましたが、教官方の徹底した予防策で中止になることなく修了できたこと心から感謝します。ありがとうございました。

### 後輩へのメッセージ

「大切な家族や友人が突然倒れた時、あなたは適切に観察し処置できますか？」救急科入校したばかりの私たちに教官が質問しました。みなさんはどうですか？救急の知識は、災害現場だけでなく、プライベートでも活かすことができます。消防士なら絶対に必要な科目です。難しい、覚えられないといった苦手意識を持ちそうですが、教官方が救急の基礎を徹底的に叩き込んでくれます。座学で学んだ知識を実技で最大限に発揮させてくれ、大変充実した有意義なカリキュラムになっています。救急分野に少しでも不安のある方、興味がある方は絶対に入校してください。そして大切な方を守ってください。

**埼玉県南西部消防局 藤田 信之 消防副士長** \*第1小隊副総代

### 修了しての感想

私は、救急の知識と技術が極めて未熟な状態で救急科に入校し、修了後の到達目標を「救急隊をしっかりと支援できる消防隊員になる」と設定して座学及び訓練に励みました。

不安はありましたが、教官と所属分隊の学生たちに恵まれたため、おかげさまで到達目標を達成できたと思っております。



### 後輩へのメッセージ

救急科は、大人が大人を教育する成人教育を採用しています。故に、高圧的な指導等はないため、自身の意識次第で楽しみながらしっかりと技術と知識を身に付けられます。

ですが、救急科入校中に余計な労力と時間を費やさないように、入校前には所属で事前訓練をしっかりと行うことを強く勧めます。

### 修了しての感想

私は埼玉県消防学校第147期救急科において、第2小隊の副総代を務めさせていただきましたが、教育期間中は学生の皆様から多くの支えがあったからこそこの職務を全うすることができたのだと感じております。これは学生一人ひとりが埼玉県消防学校救急科における「成人教育」という教育理念を良く理解し、主体的かつ協調性をもって行動していただいた賜であると感じております。教官・講師・学生他全ての関わられた方々のおかげで修了を迎えることができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 後輩へのメッセージ

皆様にとってこの救急科は救急救命士への通過点と考えている方、ひとまず救急隊員としての資格を取得するために来られている方、任命権者の命により特に希望もなく、半ば来させられている方と様々だとは思いますが、この救急科の実施に当たっては、あなたご自身も含め、多くの方の時間と労力がかけられていますので、せっかく入校が決定したのであれば、全ての人に感謝しつつ、全てに全力で取り組み、ぜひ実りの多い教育課程としていただきたいと思います。皆様の健闘をお祈り申し上げます。

## 救急科の教育訓練の様子



入校式



座学



車外救出訓練



搬出訓練



産婦人科訓練



外傷訓練